令和5年度　学校評価書（共通）　後期

校名　宇和島市立明倫小学校

1　自己評価書

教育目標	自ら考え進んで実践する心豊かな子どもの育成　～笑顔と感動、みんなの明倫小学校！～
基本方針	凡事徹底　～当たり前のことを当たり前に～
本年度重点目標	①安全・安心な学校づくり　②確かな学力を育てる教育の推進　③学校全体で進める生徒指導の充実　④特別支援教育の充実　⑤豊かな心、健やかな体を育てる教育の推進　⑥教職員の資質・能力の向上と学校組織の活性化

評価項目		評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。	・分析資料の作成	B	B
				・具体的な対策の実施	B	
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	A	
			ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート	B	B
				・児童生徒アンケート	A	
			一人1台端末（iPad）及びEILS（えひめICT学習支援システム）を積極的に活用し、個に応じた新しい学びのあり方の推進に努めた。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	A	
	③	家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。（予習・復習・振り返り等）	・教師アンケート	C	B
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	B	
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	C	
				・児童生徒アンケート	B	
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート	C	B
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	A	

（成果と課題）
読書活動については、みきゃん通帳の活用や1日15分の家庭での読書を目標に掲げ、児童への働き掛けを充実させていくことができた。家庭学習については、「自学グランプリ」を実施するなどの取組を充実させてきたが、十分な効果があったかどうかは検証していく必要がある。ふるさと学習については、各学年で地域の人・もの・ことを通して学ぶ機会を増やしてきたが、児童が地域に積極的に関わるという点では弱い部分があった。

（改善策等）
児童、家庭、学校が読書に関する共通理解をしていくため、今後も児童への意識付けの充実、家庭への啓発の継続に努めていきたい。また、アンケート調査を行うことで実態を把握し、無理のない範囲で家庭での読書ができるよう働き掛けていきたい。ふるさと学習については、学習のねらいを明確化し、地域の方にもっと来校してもらって活動できるように年間指導計画等の見直し、改善を進めていく。

評価項目		評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	A	
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	A	
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	B	B
				・児童生徒アンケート	A	
				・保護者アンケート	B	
			いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	B	B
				・児童生徒アンケート	B	
				・保護者アンケート	B	
	③	基本的生活習慣の徹底	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で組織的に取り組んだ。	・教師アンケート	B	B
				・児童生徒アンケート	A	
				・保護者アンケート	B	
	④	自己肯定感　等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的に行った（自分にはいいところがある）。	・教師アンケート	B	B
				・児童アンケート	B	
			自己有用感（人の役に立っている）や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート	B	
				・児童アンケート	B	

（成果と課題）
アンケート結果からは、児童の規範意識の向上が見られた。しかし、校外での児童の生活で指導を要するケースもあり、今後も継続した指導が必要である。自己肯定感・自己有用感に関する項目では、前期から大きな変化は見られなかった。教育相談を適宜行ったことで、困ったときに教員に相談しやすいと感じている児童の割合がわずかだが上昇した。

（改善策等）
児童の規範意識の向上については、地域、家庭とも連携した取組が必要である。共通理解の下で指導ができるよう、学級PTA、育成会総会、学校運営協議会の場を活用していきたい。普段の学習活動で対話の場面を意図的に設定して充実させてきたが、今後もコミュニケーションを通して自己肯定感を高められるように継続して働き掛けていきたい。

＜評価基準＞　A　目標を達成　B　8割以上達成　C　6割以上達成　D　6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、教職員の意識改革に努めた。	・教師アンケート	C	C
				・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B	
	②	働きやすい環境づくり	新型コロナウイルス感染症5類感染症への移行後の業務改善に向けて、教育活動の回復や精選に慣例にとらわれることなく取り組んだ。	・教師アンケート	B	B
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	B	B
	③	他の教職員のサポート体制の充実	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	B	B

（成果と課題）
時間外勤務が1か月当たり80時間以上の超過となる教職員数は多く、固定化しつつある。業務量そのものに大きな変化がないため、意識改革をねらった働き掛けだけでは現状の改善にはつながりにくい状態である。2学期には、授業時間数を調整しつつ事務処理等に当たる時間を捻出することにより、業務改善につなげることができた。教職員同士がサポートし合う体制は充実してきており、アフターコロナの教育活動について工夫しながら取り組んでいくことができた。

（改善策等）
時間を捻出するアプローチは有効であったため、今後も放課後に各自が業務に当たることのできる時間を拡充していきたい。ICTを活用した業務改善も続けているが、小さなことを積み重ねていくことにより、業務の効率化を更に進めていく必要がある。業務改善については、ボトムアップ型の取組が欠かせないため、それぞれが工夫して取り組めるような環境づくりをしていきたい。

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた（校内体制）。	・教師アンケート	B	B
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化（地域・保護者へ）を図り、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	B	
				・保護者アンケート	B	
				・地域アンケート	B	
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	B	
	③	来校・相談体制	保護者や地域の方々が来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	B	
				・地域アンケート	B	

（成果と課題）
学校運営協議会でどのようなことをしているか、学校だよりやグループウェアなどで情報共有を進めていき、教職員の理解を深めることができた。情報発信については、ホームページや各種通信を充実させることで、より一層保護者に学校の様子を知ってもらうことができた。ホームページを活用していく上で、どのような情報を掲載していくのが効果的なのかを検討していく必要がある。

（改善策等）
学校運営協議会で協議したことを具体的な形にしていくためには、児童、教員、保護者、地域住民等の共通理解が欠かせない。次年度は、学校運営協議会に児童代表（児童会役員）が参加することにより、それぞれの思いがつながるようにしていきたい。
ホームページについては、掲載する情報を精選し、より効果的な情報発信を進められるようにしていく。

＜評価基準＞　A 目標を達成　B 8割以上達成　C 6割以上達成　D 6割未満